

## 22. アジア・アフリカ地域研究研究科

(1) アジア・アフリカ地域研究研究科の教育目的と特徴 22-2

(2) 「教育の水準」の分析 . . . . . 22-3

分析項目Ⅰ 教育活動の状況 . . . . . 22-3

分析項目Ⅱ 教育成果の状況 . . . . . 22-7

【参考】データ分析集 指標一覧 . . . . . 22-9

## (1) アジア・アフリカ地域研究研究科の教育目的と特徴

京都大学は、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある発展に貢献することを目標としているが、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科は、この目的を達成しうる人材の育成にむけて、1998年4月にわが国で初めての地域研究に関する専門家を養成する機関として設立された。教育においては、フィールドワークと学際的・総合的研究を重視しつつ、以下の3点を目標としている。

### 1. 総合的地域研究に関する教育の推進

グローバル化が進行する現在、地球、地域、人間の共生の重要性がますます広く認識されている。共生を実現するためには、生態や社会・歴史が異なる多様な地域に関する総合的で深い理解が必要である。こうした認識のもとに本研究科では、地域を総合的に捉えてそこに問題群を発見し、それに積極的にとりくむことができる先導的な地域研究者および地域実務者を養成する教育を推進する。

### 2. 文理融合教育の推進

現代の地域と世界をとりまく問題の多くは、社会科学と自然科学に分けて対応することが難しい、多様な要因が錯綜する複合的な問題群である。本研究科では、アジア・アフリカ地域におけるさまざまな問題群を文理融合的に理解するための教育体制を構築する。

### 3. フィールドワークにもとづく教育の推進

地域の固有性と多様性を根元的に理解するためには、現地語の学習と長期のフィールドワークを実施することが不可欠である。そのプロセスをとおして学生は、地域の諸問題群を発見し、その探究に向かう。海外での研究活動はまた、国際的な情報発信や学術交流のためにも重要である。本研究科ではフィールドワークにもとづく教育体制を推進し、地域の実情とニーズを深く理解した自主・自立の人材育成を目指す。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5222-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5222-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 5222-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 なし）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 5222-i3-3～6）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2018年度にアフリカ地域研究専攻の講座を、現行の生業生態論講座、社会共生論講座、アフリカ潜在力講座に再編し、政治・経済・社会等の諸側面で近年急速に変容しつつあるアフリカ地域の現状ならびにその背景をより適切に研究および教育課程に反映できる体制を構築した（別添資料 5222-i3-1～2） [3.1]

#### <必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

##### 【基本的な記載事項】

## 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 教育活動の状況

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 5222-i4-1~2)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 5222-i4-3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 5222-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
(別添資料 5222-i4-5)
- ・ 指標番号 5、9~10 (データ分析集)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 長期のフィールドワークをベースとして地域研究を行い、グローバルに活躍できる人材を養成するために、研究科に附属する次世代型アジア・アフリカ教育研究センターの臨地教育・国際連携支援室で下記のような事業を展開している。①大学院生を海外の調査地でのフィールドワークに長期・中期・短期で派遣するための 익스プローラー・プログラム (別添資料 5222-i4-6) を継続して実施しており、2019年度には日本人学生 48名、留学生 16名を海外に派遣した。②国際研究発信力強化プログラム (別添資料 5222-i4-7) では大学院生に対して、英文での調査関連文書の執筆指導や、国際集会開催の支援を行っており、2019年度には調査申請書類の作成支援 11名、ベトナムにおける英語での口頭発表支援 6名、英文論文の校閲 11名の実績がある。③大学院生が自らの調査地との比較の視座を養うことを目的として教員と複数の院生を同時に海外に派遣する臨地キャンパス・プログラムを 2016年度にミャンマーとタンザニアで実施し、のべ 13名を派遣した (別添資料 5222-i4-8) 。 [4.1]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 5222-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 5222-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料  
(別添資料 5222-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料  
(別添資料 5222-i5-4)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 受け入れている留学生に対してはチューター~~FA~~を配置し、英文での学生便覧を毎年作成して、学習支援に当たっている（別添資料 5222-i5-5）。[5.1]

**<必須記載項目6 成績評価>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 成績評価基準（別添資料 5222-i6-1）※2019年度改定版
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 5222-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 5222-i6-3）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- （特になし）

**<必須記載項目7 卒業（修了）判定>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5222-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 5222-i7-3～5）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 5222-i7-6～14）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 5222-i7-15～17）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 5222-i7-18）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- （特になし）

**<必須記載項目8 学生の受入>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5222-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5222-i8-2）

## 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 教育活動の状況

- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 近年は東南アジア関係の就職が良好であり、修士学位取得退学希望者が多数発生し在籍学生数が大幅に減少することが想定されたため、東南アジア地域研究専攻では外国人留学生や3年次編入を積極的に活用してきたため、入学者数が入学定員の1.40倍に達した（別添資料 5222-i8-2）。しかしながら、想定したほどには修士学位取得退学者が発生しなかったために、入学定員の管理を厳しくするよう、研究科の自己点検・評価委員会から東南アジア地域研究専攻ならびに入試委員会に注意を喚起した（別添資料 5222-i8-3）。[8.1]

### <選択記載項目E リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 5222-iE-1）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017年度に新たに履修証明プログラムに着手し、2017年度～2018年度の2カ年の履修証明プログラム「アジア・アフリカ地域研究入門」を実施した。受講者に対してアンケートを行い、概ね好評であることを確認し、また講師を務めた教員から今後の改良点について意見を聴取し、研究科会議で報告した（別添資料 5222-iE-2）。この2カ年の履修証明プログラムに代えて、2019年度からは単年度で修了する履修証明プログラムを実施している（別添資料 5222-iE-1）。[E.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5222-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5222-ii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- （特になし）

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 研究科に附属する次世代型アジア・アフリカ教育研究センターにキャリア・ディベロップメント室を設けて、専任の教員を配置して、進路相談、講習会の開催など、大学院生の修了後を見すえたキャリア支援を継続的に行っている（別添資料 5222-ii2-1）。

### <選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 5222-iiA-1）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- （特になし）

### <選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 5222-iiB-1～2）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- (特になし)

**<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 5222-iiC-1~2)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 研究科が独自に卒業生の就職先や進学先等の関係者に問い合わせることは困難であり、民間企業を対象として全学で実施したアンケート結果(別添資料 5222-iiC-1)のなかから、当研究科の卒業生を抽出して分析し(別添資料 5222-iiC-2)、優秀な人材と評価されていることを確認した。[C.0]



【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。